

**「東四つ木地域における学校適正規模の方向性（案）」説明会
質疑応答（概要）**

（１）保護者向け説明会

（渋江小学校：令和５年４月２２日 １１：３０～）

【質問１】通学区域の拡大について、葛飾区は通学区域を越境して通学できるため、問題の解消にならないのではないか。

【回答１】原則、本区は住所地ごとの指定校に通学することとしていますが、定員に満たない場合は、指定校を変更できる制度があります。

このため、他の地域に通学する児童・生徒をゼロにすることは難しいですが、東四つ木地域の教育環境を向上し、地域の子どもたちが通いたいと思っただけのような学校づくりを、今後、地域の皆様と検討してまいります。

【質問２】学校統合の実施時期が気になっている。

【回答２】統合時期については、今後、検討懇談会において検討してまいります。

過去に学校統合を行った際は、概ね半年から１年かけて学校統合の検討を行い、さらにもう１年かけて各学校の児童の交流イベントを実施するなど、学校統合に向けた準備を進めました。

こうした状況を踏まえると、木根川小学校と渋江小学校の統合は、早くとも令和７年４月以降になると考えています。

（２）保護者向け説明会

（木根川小学校：令和５年４月２２日 １４：００～）

【質問１】何年後に学校統合を行うのか知りたい。

【回答１】統合時期については、今後、検討懇談会において検討してまいります。

過去に学校統合を行った際は、概ね半年から１年かけて学校統合の検討を行い、さらにもう１年かけて各学校の児童の交流イベントを実施するなど、学校統合に向けた準備を進めました。

こうした状況を踏まえると、木根川小学校と渋江小学校の統合は、早くとも令和７年４月以降になると考えています。

【質問2】今後、木根川小学校に新一年生はもう入ってこなくなるのか。兄弟姉妹がいる場合、木根川小学校に行ったり、渋江小学校に行ったりと、保護者の負担が大きくなることを懸念している。

【回答2】現時点で新一年生の募集を停止する予定はありません。来年度も引き続き新一年生を募集し、各小学校に入学していただく予定です。

【質問3】木根川小学校や中川中学校には小規模校としての良い面もある。学校の良い面がなくするのは保護者として心配である。

【回答3】検討懇談会に各校長先生も入っていただき、統合に向けた意見交換を行う予定です。各学校の良いところを持ち寄り、東四つ木地域により良い学校ができるように検討を進めてまいります。

【質問4】学校統合についての子どもたちへの説明や、小規模校から環境が変わることへのフォローについて考えがあれば伺いたい。

【回答4】子どもたちにとって過度なストレスとならないよう、学校統合に向けた準備期間を活用して、両校で交流イベントなどを行い、友達をつくる機会を設けるなど、人間関係にも配慮してまいります。また、学級編成についても先生方と話し合いながら、うまく人間関係を築けるように工夫していきたいと考えています。

子どもたちへの周知方法については、両校で内容に齟齬が生じないように、検討懇談会で議論してまいりたいと考えています。

【質問5】先生方の異動にも配慮してもらえるのか。

【回答5】教員配置についても計画的に対応し、学校統合した際に知らない先生しかいないといった状況にならないよう、子どもたちが安心して学べる環境づくりについて配慮してまいります。

【質問6】来年度、木根川小学校の入学者数が少なくなってしまうことが心配である。木根川小学校への入学を希望する方が一人でもいれば受け入れるのか、それとも渋江小学校への入学を勧めるのか。過去の事例などあれば教えてほしい。

【回答6】区として特定の学校への入学を勧めるといったことは行っておりませんが、来年度も木根川小学校の新一年生の募集をしていくことをしっかり説明していきたいと考えております。

過去にも学校統合を行っていますが、統合と改築を並行して検討した事例はありません。入学を希望される児童、保護者の皆様に混乱が生

じないよう、正しい情報を適宜発信してまいります。

【質問 7】木根川小学校の新校舎がいつできるのか、見通しはあるのか。また、中学校も合わせた一体型校舎にすると、かなり大きくなるが、現在の機能が敷地内に収まるのか。

【回答 7】学校統合の後、概ね空き校舎の解体に1年、設計に2年、建設工事に2年を要すると見込んでいますが、検討懇談会の中でスケジュールについても議論していく予定です。施設一体型校舎の方向性がまとまりましたら、東四つ木地域の子どもたちがより良い環境で教育を受けられるように、できる限り円滑に施設一体型校舎の整備を進めていきたいと考えております。

また、小・中学校の機能については、設計を行う中で、必要な教室数や面積を確保してまいります。

【質問 8】施設一体型校舎とすると、中学生が校庭を部活で使っている間、小学生は使えないといった懸念がある。

【回答 8】学校統合によって生じた空き校舎を第2校庭として活用するという事も考えられます。また、第2校庭を部活動の活動拠点や小・中学校の運動会として活用するという事も含めて、今後、地域の街づくりを検討してまいります。

【質問 9】学校は災害避難所にも指定されているため、学校統合を行うと避難所のあり方も変わると思うが、考えがあれば伺いたい。

【回答 9】引き続き、避難所など必要な拠点については維持していくことは重要であると考えております。空き校舎の活用の検討に当たっては、地域の避難所としての視点も含めて検討を進めてまいります。

学校は地域の核であり、シンボルといえる施設です。災害発生時の避難所など重要な機能を担っているため、検討懇談会で話し合い、また、庁内の防災関係部署とも連携して対応してまいります。

【質問 10】学校統合に伴う引っ越しについて、保護者として、PTAとして仕事が発生するのか。教育委員会が各保護者へ依頼するなど、手綱を取って進めてほしいと思う。

【回答 10】施設の移転については区側で対応し、PTAの皆様にご負担をお掛けしないよう取り組んでまいります。移動する物品の取捨選択など確認が必要な事項については、学校と教育委員会事務局で話し

合った上で、PTA の皆様にご相談させていただきます。

【質問 11】 木根川小学校内の学童保育クラブはどうなるのか。また、現在も手狭になっており、定員超過となることが心配である。

【回答 11】 統合した学校内に学童保育クラブを整備していく予定です。今後、各事業者様と調整し、学校内・学校外に学童保育クラブを設ける場合にも、希望する方々を受け入れられるよう検討してまいります。

【質問 12】 学校改築の際に、木根川小学校の芝生や畑の管理はどうなるのか。

【回答 12】 具体的な施設一体型校舎の建設工事エリアなど現時点では未定です。芝生や畑の管理についても、今後、配慮しながら検討を進めてまいります。

(3) 地域住民向け説明会

(木根川小学校：令和5年4月25日 18:00～)

【質問 1】 施設一体型校舎の整備は、現在の校舎を使用するのか。

【回答 1】 施設一体型校舎の整備に当たっては、児童・生徒の動線を含めて検討を進め、学校統合後に空き校舎を解体し、子どもたちが安全に使えるような施設一体型校舎を新たに建設する方向で検討を進めてまいります。

【質問 2】 いつ頃から統合の検討を始めるのか。

【回答 2】 4月末に、第1回目の検討懇談会を開催します。第1回では検討懇談会の顔合わせや会の決まり事についての検討を行い、検討懇談会の合意が得られれば、第2回以降は公開して開催してまいります。検討懇談会での検討状況は、区のホームページを通じて地域の皆様に、また各学校を通じて保護者の皆様にお知らせしながら、検討を進めていく予定です。

【質問 3】 新しい学校づくりに当たり、3点のお願いがある。まず、両校の歴史を継承し、新しい学校をつくっていくという姿勢で臨んでほしい。次に、施設一体型校舎の校庭が狭くなることが懸念されるため、第2校庭を柔軟に活用してほしい。最後に、旧松南小や旧明石小と同様に、木根川小学校にある資料館を残してほしい。

【回答 3】木根川小学校、渋江小学校の歴史を大切にしながら取組を進めていくことは重要であると考えております。また、木根川小学校の敷地に施設一体型校舎を整備することで、中川中学校の校庭が活用しやすくなるというメリットがあると考えており、今後、空き校舎の活用についても議論してまいります。さらに、地域の歴史の保存についても、検討懇談会において検討してまいります。

【質問 4】中学校では部活動があるが、施設一体型校舎の校庭や体育館の使い方はどうなるのか。また、災害時の避難所は施設一体型校舎だけになってしまうのか。渋江小学校や中川中学校の敷地はどうなるのか。

【回答 4】例えば、小学校では施設一体型校舎の校庭を使用してわくチャレを行い、中学校は旧学校の校庭を活用して部活動を行うなどの活用方法も検討してまいります。現在、3校の体育館が避難場所となっていますが、3校それぞれの敷地を災害時に活用を視野に入れ、検討を進めてまいります。今後、施設一体型校舎以外の2校の敷地については、避難所や部活動の視点、また地域の要望を踏まえてより良い方策を検討していきたいと考えております。また、施設一体型校舎には小学校、中学校それぞれの体育館を設けることを前提に検討を進めてまいります。

【質問 5】中川中学校は今後、通学区域の変更を検討していくこととしているが、東立石地域の通学区域でもある。今後、教育委員会側で検討を進めるのか。

【回答 5】京成立石駅周辺の再開発の進捗状況を踏まえて、教育委員会で検討を進めてまいります。このため、通学区域の見直しは、今回の検討懇談会とは切り離して検討していくことを考えております。

【質問 6】区全体の人口は増加しているが、東四つ木地域の人口は減少していることを踏まえ、地域全体の街づくりを考えていくべきである。

【回答 6】全国的に出生者数は年々減少しており、本区においても年少人口は減少傾向にあります。施設一体型校舎の整備に当たっては東四つ木地域の街づくりという視点も含めて、今後、検討を進めてまいります。

【質問 7】幼保小中の連携により切れ目なく子どもたちの健やかな育ちを支えることが重要とされているが、幼稚園・保育園関係者も検討懇談会に入るのか。また、第1回の検討懇談会は誰でも参加できるのか。

【回答 7】検討懇談会は学校評議員をはじめとする学校関係者、地域代表者で開

催する予定です。第1回目の検討懇談会において、委員構成を含めて議論する予定のため、幼稚園・保育園関係者の参加についても区側から提案させていただき、了承をいただければ、第2回から懇談会の委員として、参加をお願いさせていただきます。

【質問8】施設一体型校舎となった場合、現在2校に設置されている学童保育クラブはどうなるのか。

【回答8】施設一体型校舎内に学童保育クラブを設置することを前提として考えております。校舎内に加えて校舎外にも設置が必要になるかどうかも含めて、東四つ木地域の学童保育クラブの運営については別途、庁内で検討を進めてまいります。